



夕張市におけるバス転換後の公共交通の利便性の変化

東京大学教育学部附属中等教育学校:佐々木俊哉

夕張市は市内を走るJR石勝線夕張支線(新夕張～夕張16.1km)の廃止を受け平成31年3月31日をもって廃止された。

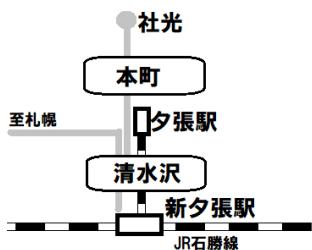
沿線自治体が廃線を受け入れることは珍しいケースなので、背景事情などを調査したところ、鉄道設備の老朽化による維持費の負担増のほかに、市内の公共交通体系を刷新するという意図もあることがわかった。

そこで、どの程度公共交通体系が刷新され、利便性が向上したのかを調べた。

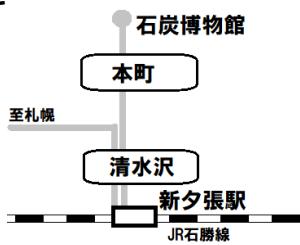
バス転換前

バス転換後

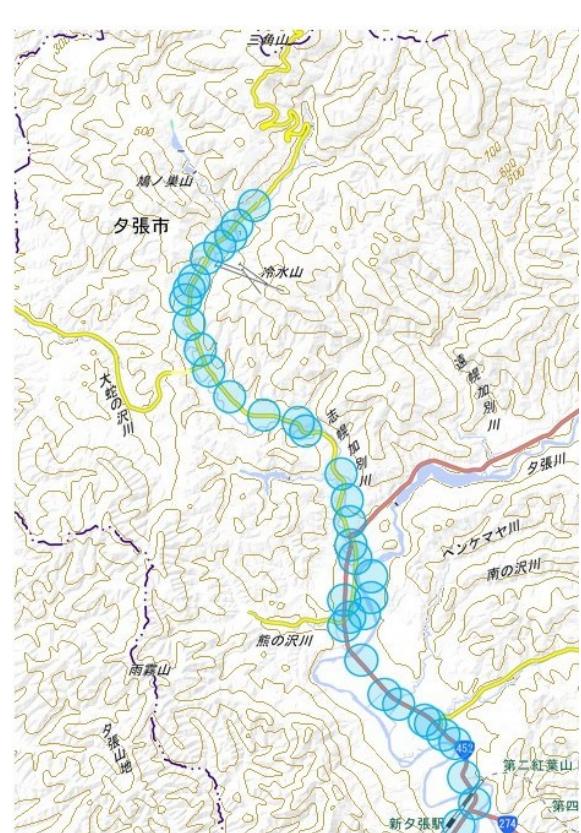
交通体系の変化



▲鉄道は市内を南北方向に、一日5往復運行され、バスは鉄道と一部区間が重複する形で8往復運行されていた



▲鉄道廃線後、南北方向の交通はバスに一本化され一日10往復運行している



※地図データは国土地理院地図(<https://maps.gsi.go.jp/>)をもとに加工

- ・地図上の水色の枠は駅・バス停から半径400m(徒歩5分圏内)を示している
- ・左地図、赤線内は主な市街地を示している(北側が市役所などがある本町地区、南側が清水沢地区)

この2つの地図より市街・それ以外の地域についても公共交通機関へのアクセスは向上していることがわかる

また、特に利便性が向上した場所についても地図を比較することで視覚的に判別できる

→鉄道のなかった北部の本町地区や駅間の地域など